**誰かにすすめたくなる、わがまち自慢をお届け**

**SAKIGAKE VOL.1川渡マルシェ**

★ このコーナーでは、大崎で活躍する人・団体、話題のもの、おいしいもの、伝統の技、物産、美しい場所など、誰かにすすめたくなる大崎の情報を紹介していきます

**柔らかい雰囲気が心地いい月1回 日曜日の楽しみ方**

　4月から11月のとある日曜日。国道47号から川渡温泉へ続く川渡大橋に掲げられた「川渡マルシェ」の旗を、見たことはありますか。

　旗に誘われてたどり着くのは川渡地区公民館。月1回の日曜日、10時から13時まで「川渡マルシェ」が開催され、川渡温泉ににぎわいます。

　「マルシェ」とは、フランス語で「市場」という意味。「買い物弱者が増加している川渡地区で、気軽に買い物をして、人との交流を楽しみに来てほしい」という願いを込めて、川渡マルシェは5年前に始まりました。「マルシェ」というと、なんだかおしゃれな雰囲気が漂いますね。

　川渡マルシェには、地元のとれたて野菜、パン、おむすびにハンドメイドのアクセサリー、木工おもちゃ、出張療術、相性占い、ステージでは絵本の読み聞かせ、ミニコンサート…と、実にバラエティに富んだ出店が並びます。多いときで、40店ほどの出店が集まるそうです。

　ご飯のおかずを買う地元のお母さんたちや、お小遣いで雑貨を買う子どもたち、温泉帰りに立ち寄る観光客と、ひっきりなしにマルシェのファンが訪れます。

　マルシェの醍醐味は、なんといっても買い手と売り手のやりとり。川渡マルシェの魅力の一つは、「雰囲気の柔らかさ」にあります。

　「お目当ての商品を競うように買い求める。1円でも安く！」。そんなマルシェも時に楽しさがありますが、川渡では「ゆったりと、自分のペースで」歩き進めるお客さんが多いようです。時間がゆるす限りのやりとりで、丁寧に、思いを込めて作ったハンドメイド作品や、こだわりの素材を使った総菜など、売り手の優しい気持ちがお客さんに伝わるのです。相手を思いやって作った商品には、売り手の人柄が見え隠れして、それもファンを引き付けるのかもしれません。

　評判は、世代・地域を問わず、口コミでどんどん広がりました。また、出店者も地元にとどまらず、中には県外から来る人もいるそうです。マルシェをきっかけに、実際に店舗を持ってカフェや商売を始めた人もいます。

　「買い物に不便を感じている人の手助けはもちろん、それ以上の楽しみが、マルシェにはあります。」そう話すのは、川渡マルシェ実行委員長の遊佐洋子さんと運営を支援している川渡地区公民館の濱田澄子さん。

　「商品の売り買いが目的ではなくても、交流の場、仲間との親睦の場、チャレンジの場、発表の場、この場の楽しみ方は人それぞれ。無理なく、集った人が有意義な時間を過ごせて、その形がいいなと感じています。」と、5年継続して見えてきた手応えを、笑顔で話してくれました。これからの川渡地区、マルシェからわく、ささやかで、ゆるやかな活気が期待されます。

　これからの暖かい季節、川渡地区で、ゆったりお買いものを楽しむ時間はいかがですか。

写真1：川渡マルシェでハンドメイド雑貨を販売する「わくわく」サークルの皆さん。7月7日にはファッションショーを開催するそうです。

写真2：鳴子の米プロジェクト「ゆきむすび」を使ったおむすびを販売する「むすびや」さん。

写真3：川渡マルシェ実行委員長 遊佐さん（写真左から2人目）と川渡地区公民館長の濱田さん（写真右から2人目）、公民館職員の大山さん（写真左）、鑓水さん（写真右）

**川渡マルシェ**

　平成26年、川渡温泉駅開業100周年記念イベントとして開催した「川渡マーケット」が好評を呼び、現在の「川渡マルシェ」がスタート。

　4月～11月の日曜日（月1回）10時～13時まで川渡地区公民館で開催されている。入場は無料。出店は年会費1,500円で何回でも参加可。

　詳細は川渡マルシェ実行委員会（川渡地区公民館内） 84-6814

**開催日：10時～13時**

6月2日日曜日、7月7日日曜日、8月4日日曜日、9月8日日曜日、10月6日日曜日、11月17日日曜日